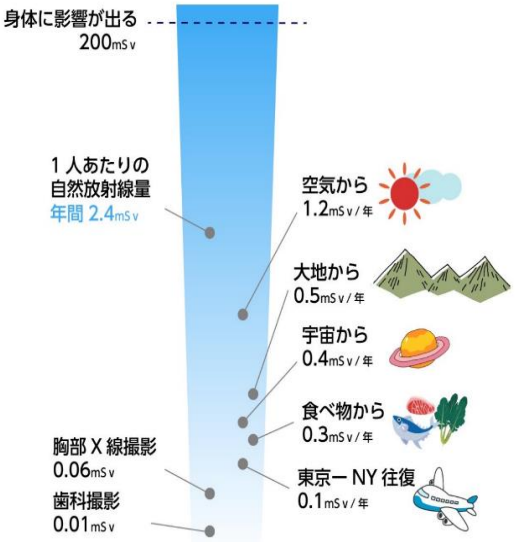
一般撮影検査について

一般撮影検査は、X線(レントゲン)を用いて主に胸部、腹部や骨などを撮影する検査のことです。X線は体内を通り抜け、各組織のX線吸収差が白黒の画像として得られます。肺などのX線が通り抜けやすい部分は黒く、骨などの通り抜けにくい部分は白く写ります。
一般撮影はCTやMRIに比べて簡便かつ迅速に全体像を知ることができるため、第一選択として最も頻度の高い検査です。

X線撮影と被ばくについて

検査	一件当たりの実効線量(mSv：ミリシーベルト)
胸部単純撮影	0.02
腹部単純撮影	1.0
頭蓋骨単純撮影	0.07
(自然放射線による被ばく)	1年間に2.4mSv



(成人における典型的な線量) ICRP Pub.87より抜粋

健診などで撮影される「胸部X線撮影」の被ばく量は、0.02～0.10mSv(平均0.06mSv)程度です。手や膝部での撮影などは、もっと少ない被ばく量になります。
私たちが普段の生活をしているだけでも年間2.4mSv(空気から1.2mSv/大地から0.5mSv/宇宙から0/4mSv/食物から0.3mSv)ほどの自然放射線を受けています。
意外に思われるかもしれませんが、それだけ少ない被ばく量で「胸部X線撮影」の検査は行われています。

検査時にご不明な点、ご不安な点などありましたら、診療放射線技師に遠慮なくお尋ねください。

(文責:宮崎)